

酒類・食品 & News 解説

週刊

令和7年7月11日(金曜日) 第3453号
 (昭和42年7月10日第3種郵便物認可)
 毎週金曜日 発行 編集発行人 石母田 健
 購読料 6ヵ月 15,730円(税込)
 振替番号 東京4-71739
 発行所 株式会社 日刊経済通信社
 本社/東京都中央区日本橋小伝馬町10番11号 日本橋府川ビル
 ☎03(5847)6611(代) FAX 03(5847)6600
 名古屋支局☎052(253)6924 大阪支局☎06(6353)1791
<http://www.nikkankeizai.co.jp/>



冷凍食品市場、引き続き拡大基調

コストアップやまず今夏以降値上げへ

冷凍食品市場は、引き続き拡大基調にある。家庭用は米飯類、めん類を中心に好調に推移。コメ高騰のあおりから増勢している。また、ワンプレート商品の伸長も著しく、各社からバラエティー豊かに品ぞろえされ、売り場を賑わせている。業務用は調理現場の人手不足を背景に、今後もニーズは高まることとが確実視される。一方、原材料高、物流費、人件費などコストアップはとどまる気配もなく、緊迫化する国際情勢のなか、今後もさらなる上昇は必至。業界は昨年に続き、今夏以降も値上げに動く。

〈終わりの見えぬコストアップに対応〉

冷凍食品市場は、ここ数年、半期に1度の値上げを余儀なくされている。2020年のコロナ禍以降、原材料費、人件費、物流費などが高騰していたなか、ロシアのウクライナ侵攻(22年2月24日)、イスラム組織ハマスのイスラエル急襲(23年10月7日)以降、悪化する中東情勢が世界的な原油高や食糧相場上昇に拍車をかけ、これに急激な円安が追い打ちをかけた。さらに、25年は第2次トランプ政権による「トランプ関税」、イスラエルのイラン核関連施設空爆(6月13日)が世界経済と安全保障環境を大きく揺るがし

ている。こうしたなか、21年秋以降、業界は段階的な価格改定を実施。22年春、秋、23年春、24年春、秋に続いて25年春と段階的に実施してきたが、今夏以降も値上げに動くこととなった。

〈マーケット状況〉

昨24年度(4~3月)の家庭用マーケットは続伸。本紙推定では金額ベース106%、数量ベース103%と、金額・数量ともに上回ったものとみられる。主なカテゴリー別では、米飯類(金額107%)、めん類(同107%)、惣菜類(106%)、和風スナック(111%)、野菜類(115%)は伸長した二方向(97%)は減少、中華類(102%)は前年並みとなった。

米飯類のうち、中華炒飯(108%)、おにぎり類(116%)は増勢、和風米飯(86%)は2ケタ減、ピラフ類(104%)は堅調に推移した。米飯類は、昨夏の南海トラフ地震臨時情報の発表で防災需要が高まり、コメ不足高騰(令和の「コメ騒動」)の起点となった8月以降、引き合いが強まった。その後、年明けから現在まで増勢基調にある。

主な内容

冷凍食品市場基調	12面
宝酒造「ヨナタ」海外商品	12面
乳業「パン」淡路島牛乳視察	11面
カゴメ「ナポリアン」授賞式	13面

大森屋 新市場創造型	5面
日本ガラス工業 26年度事業方針	7面
アルビオン西友、経営統合	2面
JAPANシヨウ 8月開業	45面
首脳「インサリン」吉雄 常務執行役員	15面
◎原料商品情報	89面

元気印のめん類の内訳をみると、主力の Pasta(109%)が市場をけん引したほか、ラーメン類(同108%)が拡大。焼きそば(114%)も続伸。うどん・そば類(102%)は安定基調となった。競合各社がプロモーション活動を強化したことで競争が激化した。

弁当類の減少は、節約志向が高まり売り場が拡大した一昨23年度の反動とみられるほか、値上げで店頭売価が200円を超えてきたことで回転が落ち込んだとの見方もある。直近では、コメ高騰から弁当持参率の低下の影響も指摘されている。惣菜類は、唐揚げ類の伸びが一服したが、ワンプレート商品の伸長が著しい。和風スナックは今川焼がけん引。大手ブランドがプロモーションを強化したことやコメ食から粉ものへのシフトも追い風となっている。野菜類は生鮮野菜の高騰で需要が拡大。特に1月に131%と急増、2月も122%と冬場の相場高が影響した。

家庭用マーケットは、今期4月以降も拡大基調にある。4月単月は107%と続伸した。米飯類が114%、めん類も110%と市場をけん引。和風スナック

(2面に続く)

健康にアイデアを



meiji

素材に、こだわり。

明治 コーンソフト



株式会社 明治